物価上昇が米利上げ期待誘うか~米消費者物価指数

2018年4月9日(月)

米中の通商問題を中心とした政治相場が続く市場。 その一方で米経済はしっかりとした成長を続けており 3月の利上げに続いて、今年後二回前後の利上げが期待される状況に。

次々回(次回はメンバーの見通し発表や議長会見の無い回の為)の6月12日、13日開催のFOMCでの利上げ確率は、FF金利先物市場の動向から見たCMEFEDWACTHで85%強とほぼ織り込み済みという状況。9月に3度目の利上げという見通しも過半数を超えるという状況になっています。

今年は3回で打ち止めという見方が約70%と大勢を占めていますが、 12月にも利上げを実施して年4回という見通しもそれなりに残っています。 こうした利上げの実施可能性において 鍵を握ると見られているのが米国の物価統計です。

米FRBに課せられた二つの命題、 雇用の最大化と物価の安定のうち、 雇用の最大化はほぼ実現している状況だけに 物価がターゲットに達し、さらに超えていくのかどうかが 利上げを決めるポイントとなります。

そうした中、今週は10日に生産者物価指数(PPI) 11日に消費者物価指数(CPI)の発表が予定されています。

米国のインフレターゲットは、 個人消費支出(PCE)デフレータを前年比+2.0%ですが PCEデフレータはその性質上CPIと動きが似ていることもあり、 発表の遅いPCEデフレータ(3月分は4月30日発表)よりも CPIが重要視される傾向にあります。

前回は、総合、コアともに前年比が事前見通しと一致し 影響は限定的なものにとどまりました。

もっとも、3月29日に発表されたPCEデフレータは 総合が予想を上回る+1.8%の好結果、コアは予想通りの+1.6%も前回値より強く 総じて強めの数字となりました。 2.0%のターゲットには届いていませんが 比較的近づいているという印象。 今回のCPI次第では、ターゲット到達が現実味を帯びてきます。

今回のCPIの予想は総合前年比が+2.3%と前回の+2.2%から0.1ポイントの伸び 食品・エネルギーを除くコアは+2.1%と前回の+1.8%から0.3ポイントも大きく伸びるという 強めの予想になっています。

PCEデフレータの方が、CPIよりも一般的に弱く出るため (代替品の取り扱いなどの違いの為) CPIの予想通りの数字=インフレターゲット超えではありませんが 期待感は十分に持てる水準で ドル買いを支える可能性も。

PPIの方はCPIほどの注目度はありませんが こちらもインフレ期待には重要な影響を与える指標です。

予想は、前年比+2.9%、コアの前年比+2.6%とともに前回値よりも強めの数字。

CPIとの相関があり、発表も一日早いPPIが 予想通り好結果を示すことでCPIへの期待も強まり ドルが早めに上昇する可能性があります。

ここに掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、特定の商品などの投資の勧誘を目的としたものではありません。 最終的な投資判断は、お客様ご自身の判断と責任によってなされ、この情報に基づいて被ったいかなる損害について「株式会社みんかぶ」では責任を一切負いかねます。「株式会社みんかぶ」は、信頼できる情報をもとに情報を作成しておりますが 正確性や完全性について責任を負いません。ここに掲載されている情報は、作成時点のものであり、市場環境等の変化などによって予告なく変更または廃止されることがあります。ここに掲載されている情報の著作権は、株式会社みんかぶに帰属 し、株式会社みんかぶの許可無しに転用、複製、複写はできません。株式会社みんかぶ